Ⅱ．地域振興及び産業振興

事業名：⑦有明海のワイズユースに関する教育研究

事業責任者：低平地沿岸海域研究センター　速水　祐一

【事業のあらまし】

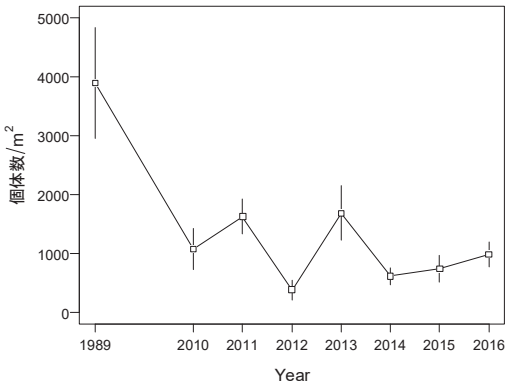
有明海は、地域住民に豊かな水産物や独特な生態系といった海の恵みを与える一方で、解決が求められる多くの課題を抱えている。本事業は、地域から解決を求められている有明海に関連した諸課題を地域諸機関が共同で研究するとともに、有明海の魅力を次世代に伝承するための幅広い教育・啓発活動を実施するものである。

【平成２８年度の取組】

本事業では、ＮＰＯ法人有明海再生機構・佐賀県と連携して、有明海再生方策検討事業として、有明海湾奥部における生物生態系調査とそれによる諫早湾潮受堤防排水門の中長期開門効果の検証、サルボウを利用した環境改善に関する研究を実施している。本年度は、潮受堤排水門開門が実施された場合の水質・底質・底生動物のモニタリング調査の継続実施、サルボウの動態把握のための幼生供給と着底との関連について調査した。前者では依然として有明海奥部の底生生態系は疲弊した状態にあること、後者では幼生供給は十分だが、年により出現タイミングが大きく異なるために貧酸素水塊への暴露の程度の差が生じ、これが着底の成否に影響する一因であることが示唆された。

本事業のもう１つの目的である教育・啓発活動としては、昨年度に引き続いて、「市民の科学講座～有明海学」を、７月～１月の間で６回にわたって開催した。本講座の初回は、「Enjoy!有明海・玄海～体験しよう２つの海 in 鹿島」の中で実施し、様々な体験イベントと合わせて行うことで、多くの市民に対して有明海の魅力を伝えることができた。３月５日には、「有明海ラムサール条約湿地交流会」をテーマとして、第５回「まえうみを考えるシンポジウム」を開催する。本シンポジウムでは、有明海にある３つのラムサール条約登録湿地で調査を行っている方々を集め、情報を交換すると共に今後どのようにワイズ・ユースを図っていくのか議論する。

「Enjoy 有明海・玄海」の体験講座の様子



有明海北西域マクロベントス密度の推移